



敦賀本部

【技術交流トピックス】 伝統野菜『マナ』によるアグリビジネス創造に向けて

わが国の少子高齢化現象は、人々の健康食品への関心を著しく高め、地域に根付いた伝統的産品が求められています。

そのような中において、敦賀市、山マナ生産組合におかれては、1985年に一村一品運動として山地区の伝統野菜であるマナの特産化を目指し、消費者参加の摘み取り、漬物、おやき等の加工場開設、平成に入ってから、マナ祭りを毎年開催する等、消費者確保の努力を実施してきており、敦賀市内はもとより福井県内から全国に、マナの知名度が徐々に高まってきております。それに伴い、将来に亘り、栽培技術、品種の保存と併せて現在の食と飾の要求に応じた担い手の育成・確保、産品の量産化、多様化から更には高級嗜好品の創出などを課題とした地道な取り組みをなお一層進めて行くことが望まれております。



“マナ”圃場(敦賀市山地区)

当機構では、そのような取り組みに対し、マナの食と飾をテーマとした新たな産品開発による最近のアグリビジネスとしての発展を期待して、県の進めるエネルギー研究開発拠点化の趣旨に則り、放射線照射による品種改良技術等を活用しながら、関係機関と連携し支援して行く計画です。

【成果展開事業説明会】 青森市 & 永平寺町で開催

今年5月、「原子力産業と地域・産業振興を考える会」の<新産業創出研究会(5/17)><技術開発研究会(5/18)>より依頼を受け、青森県青森市において“成果展開事業”や“福井県における地域産業との連携活動”について、県外で初めて紹介しました。この説明会では、両日あわせて70名ほどの方々が参加され、意見交換や交流を持つことができ、“福井県での活動を青森県での参考にしたい”、“展示会やオープンセミナーを青森県でも開催してほしい”等といったご意見をいただきました。

また、6月8日には永平寺町商工会では初めての説明会を開催いたしました。原子力機構 敦賀本部で進め



青森市での説明会風景

ている事業の紹介をはじめ、エネルギーや放射線などについて説明する“さいくるミーティング”とあわせて、技術相談や技術交流、成果展開事業等の事例の紹介を行いました。

今後とも、説明会や展示会を通じて多くの方々と交流をもち、協力していきたいと思っております。また、ご連絡いただければどこでも説明に参ります。よろしくお願いたします。

お勤めの“マナ”料理



エンドウとの
コラボレーション
提供:京菜 かわにし



収穫期のマナ

【イベント予定】
【第9回オープンセミナー】
・9/12(火) - 敦賀
13(水) - 福井
開催

マナとは.....



敦賀市の山集落で古くから栽培されてきた伝統野菜。花色は淡黄色で、葉は丸味があり、ナタネ(菜種)とタカナ(高菜)との交雑種と考えられています。

少しほろ苦い独特の風味が特徴で、3月下旬から4月中旬、とう(花の茎)が伸びて、つぼみが膨らむ頃に、茎を摘み取り、お浸しや煮物、漬物などにして食べます。